

－QUIS-ME プロジェクトのウェブサイトはじめました－

2016年11月24日

皆さま、初めまして。このウェブサイトをご訪問いただき、ありがとうございます。このプロジェクトでは、パプアニューギニア国の理科と算数の小学校向け教科書の開発をお手伝いしています。詳細はプロジェクト概要のページをご参照ください。

さて、プロジェクト自体は2016年2月から開始しておりまして、いくつかの活動がすでに始まっています。今回は簡単なプロジェクトの紹介を兼ねて、2016年2月～8月の活動をダイジェスト版で振り返ってみましょう。

1. プロジェクトを行うための投入

「教育省が理数科の教科書・指導書を全国に導入するための準備が整えられる」ことを目標とし、そのために教科書開発・普及戦略の策定、教科書・指導書の開発と検証、研修教材の開発をおこなう当プロジェクトですが、まずは活動をおこなう人や、場所、機材が必要です。最初の半年で、多くの機材や人員の整備が進み、活動を始める基盤ができました。

<日本人専門家とパプアニューギニアのカウンターパート>

このプロジェクトには、12人の日本人専門家が参加しています。それぞれの専門性を活かして、プロジェクト活動を進めています。

表 1: 日本人専門家一覧

	氏名	担当
1	伊藤 明德	総括/教育計画 1
2	山岡 智互	副総括/教育計画 2
3	都築 昌子	教育政策/援助協調
4	日下 智志	教科専門家 (算数教材作成支援)
5	磯田 正美	教科専門家 (算数教材作成支援補助)
6	杉山 竜一	教科専門家 (理科教材作成支援)
7	持佛 賢一	教科専門家 (理科教材作成支援補助 1)
8	喜多 雅一	教科専門家 (理科教材作成支援補助 2)
9	芹沢 克明	教科書開発 (算数)
10	駒沢 進	教科書開発 (理科)
11	来島 孝太郎	業務調整 1 /研修計画 1/教科書開発補助 (理科)
12	山田 恭子	業務調整 2 /研修計画 2/教科書開発補助 (算数)

パプアニューギニアのカウンターパート機関は教育省のカリキュラム開発局になります。プロジェクト・ディレクターやカリキュラムオフィサー、テキストブックライターといった多くの教育省職員や教員がプロジェクトのために働いています。特にテキストブックライターという教科書を執筆する職位は新らしく設置され、12人の職員が新たに雇用されました。



カリキュラムオフィサーとテキストブックライター達

<事務所や機材>

パプアニューギニア政府が事務所の場所を提供し、日本側がコピー機やパソコンなどの事務機器などを整備しました。プロジェクト事務所、理科教科書開発室、算数教科書開発室の3部屋がカリキュラム開発局から提供され、プロジェクトの事務所や作業場所として整備されました。



整備された事務所や事務機器

2. 「成果1：教科書の普及のための戦略と計画が策定される」の活動

教科書を普及するためには、その開発の手順やスケジュールをきちんと計画するだけでなく、その印刷や配布、学校の先生たちに使い方を教える方法なども戦略を立てて、計画的に実行していく必要があります。そのように学校の子どもたちや先生の手には教科書が届いて使われるようになるまでの戦略と計画を作ることをプロジェクトで支援しています。すでにワーキンググループや委員会が設立され、普及戦略・計画のドラフトが策定されています。また、その計画に基づいて、教育省の幹部とプロジェクトで、パプアニューギニア国内の予算確保のための啓発活動を行いました。



ワーキンググループ設立の説明をする伊藤
総括



第1回 JCC 会議では、活動進捗・課題や普及
戦略などが話し合われた



教科書の普及のための戦略と計画を協議
する教育省職員



国家計画モニタリング省での予算確保の
啓発活動をする教育省ハタゲン第一次官補

3. 「成果2：新たなカリキュラムに沿った教科書の第1ドラフトが完成する」の活動

教科書と指導書の開発自体の作業も、進んでいます。最初の半年では、まずパプアニューギニア側のカウンターパートと科書開発のプロセスを協議して、決定しました。そのプロセスに沿って、まずパプアニューギニア国で開発中の小学校のシラバス案を見直し、必要に応じて教育省側に修正の提言をおこないました。そのシラバスに沿って、まずは教科書と指導書のドラフトを作り始めています。できたドラフトは、先生たちで模擬授業をして検証し、修正します。



良い国定教科書作成のワークショップで教科書のコンセプトを説明する磯田専門家



系統性や適時性を考慮しつつ、カウンターパートと年間指導計画を作成



日本のケースも参考にして教科書・指導書のドラフトを開発



教科書・指導書は、カウンターパートが模擬授業して最初の検証をする

4. 「成果3：教員・児童にとって教科内容を理解しやすい教科書・指導書が完成する」の活動

成果2でドラフトされた教科書は、パイロット10校で実際に使ってみた結果をもとに、改定し、パプアニューギニアの先生や、子どもたちが使いやすい、分かりやすい教科書・指導書にしていきます。まだ、教科書や指導書のドラフトを作成中ですので、この部分は活動が始められませんが、まずはパイロット校を10校選び、協力をお願いしました。



パイロット校のひとつ中央州ガイレ小学校



パイロット校のワードストリップ小学校は、教科書に掲載する写真撮影も協力

5. 「成果 4：教員が教科書の使い方を学ぶためのオリエンテーション教材が開発される」の活動

プロジェクトで開発した教科書と指導書ですが、パプアニューギニアの学校では、全生徒が教科書をつかった授業をした経験のある学校はあまりなく、ただ単に学校に配っただけでは、使われなかったり、間違った使い方をされてしまう可能性があります。そこで、どうやってこの新しい教科書や指導書を使って授業していくのかを研修することが必要になります。そのためのオリエンテーション教材をプロジェクトでは開発していきます。教科書ができてからが本格的な活動になりますが、まずは活動メンバーを決めて、活動の計画を作りました。



現職教員研修の戦略と計画をたてるカウンターパート



教員養成校で、新教科書への対応をどうか検討するカウンターパート

皆さま、長文にお付き合いありがとうございました。ご覧のように QUIS-ME プロジェクトは、順調に滑り出し、パプアニューギニア人も日本人も一緒になって、子どもたちの未来のために、良い教科書を作れるように日夜、頑張っています。当ホームページもこれから、随時更新していく予定ですので、また、当ページをたまに覗いて頂けると嬉しいです。では、次回のニュースをお楽しみに！またお会いいたしましょう(^_-)☆

文責：山岡智互（副総括/教育計画2）